

IR NEWS

2025 年度 授業評価アンケート結果から見る教育改善の取組

第 7 巻第 2 号(通算 10 号) 2026 年 5 月 20 日発行

全学的な教育改善	DP に基づく質保証	改善サイクルへ接続
学生の学修経験を基に、授業設計・学修支援・フィードバックの状況を可視化しました。	卒業認定・学位授与の方針(DP)に基づく学修目標と授業・評価の整合を確認しました。	結果は内部質保証会議、各学部の FD、ティーチング・ポートフォリオに活用します。

本資料は、2025 年度授業評価アンケート結果の学外向け概要版です。東京医療保健大学では、授業評価アンケートを、学生の声を授業改善と教育の質保証につなげるための重要な教学 IR データとして位置づけています。2025 年度は、学修目標、授業方法、成績評価、フィードバック、学生自身の学修行動、教員の授業運営をより体系的に把握できるよう、アンケート項目を見直して実施しました。個別授業・個別教員・学部等を順位づけるものではなく、学生の学修経験を教育改善に活用する本学の内部質保証の取組を紹介することを目的としています。

1. 2025 年度結果の概要

区分	肯定的回答の概要	読み取りのポイント
学部計	平均 90.0%	多くの設問で高い肯定的回答が確認されました。
大学院・専攻科計	平均 90.7%	少人数教育の特性を踏まえた学修支援の状況を確認しました。
4 領域別結果 I. 授業計画に関する説明(Q1~Q6) II. 総合評価(Q7~Q10) III. 学生自身の学修行動(Q11~Q13) IV. 教員について(Q14~Q15)	各領域で概ね 80~90% 台	授業計画・総合評価・教員の授業運営に加え、学生の学修行動も継続的に把握します。

2. 4 領域から見た授業評価アンケート結果

Q1~Q15 を「授業計画に関する説明」「総合評価」「学生自身の学修行動」「教員について」の 4 領域に整理しました。「①そう思う、②ややそう思う、③どちらともいえない、④あまりそう思わない、⑤そう思わない」の回答肢のうち、肯定的回答(①+②)の割合を見ると、学部・大学院ともに、授業計画や総合評価、教員の授業運営に関する領域で高い評価が確認されました。学生自身の学修行動についても、授業前後の学修を促進するための重要な指標として継続的に確認します。

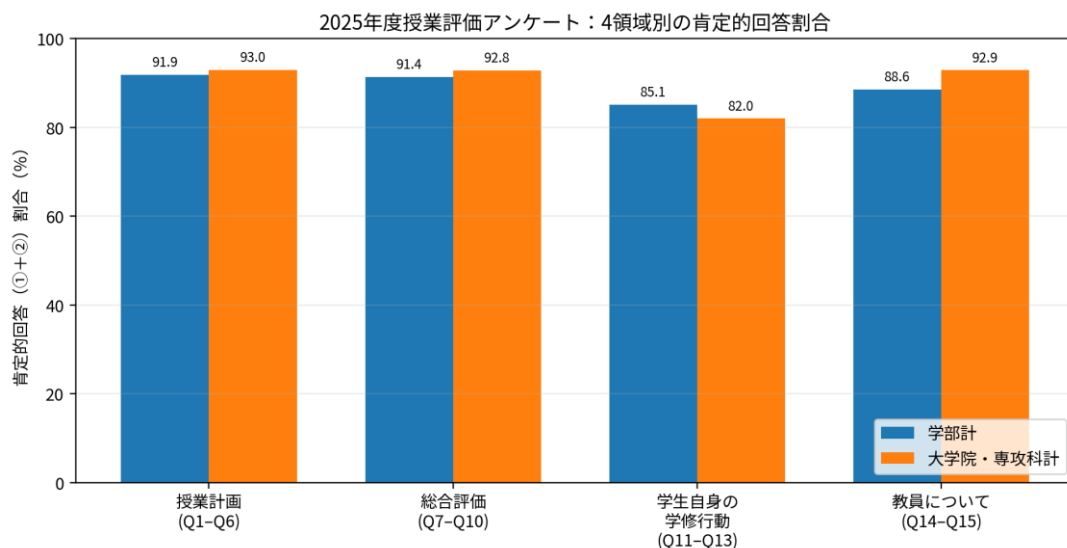


図 1 4 領域別の肯定的回答割合(①+②)

区分	授業計画	総合評価	学生自身の学修行動	教員について
学部計	91.9%	91.4%	85.1%	88.6%
大学院・専攻科計	93.0%	92.8%	82.0%	92.9%

注：肯定的回答は、5件法の上位2区分(①+②)を合算したものです。集計対象は、新アンケート項目で同一基準により集計可能な範囲です。

3. 2025年度アンケート項目見直し

2025年度の授業評価アンケートは、2024年度末の内部質保証会議を経て、教員評価やティーチング・ポートフォリオ、FD活動に接続しやすい構成へ見直しました。これにより、授業満足度だけでなく、DPに基づく学修目標、学修方法、成績評価、フィードバック、学生の主体的な学修行動を含め、教育改善に必要な要素を一体的に確認できるようになりました。

領域	設問	把握する主な内容
I 授業計画に関する説明	Q1～Q6	DPに基づく学修目標、学修方法、授業形態、科目間関連、成績評価、シラバス説明
II 総合評価	Q7～Q10	学修目標の達成、目標・方法・評価の一貫性、教材・ICT活用、フィードバック
III 学生自身の学修行動	Q11～Q13	シラバス確認、事前・事後学修、主体的・協働的・意欲的な取組
IV 教員について	Q14～Q15	興味・関心を高める授業の工夫、質問・意見・理解への対応

4. 教育改善への活用

授業評価アンケートは、学生の声を集計して終わるものではなく、全学・各学部・各教員の改善につなげるための基盤データです。本学では、以下のような観点から、データに基づく教育改善を進めます。

活用の観点	具体的な改善につなげる内容
シラバス・授業設計の点検	DP、到達目標、授業内容、成績評価方法の整合性を確認します。
学修行動を促す仕組みづくり	授業前の目標確認、事前・事後課題、LMSの活用により、学生の主体的学修を支援します。
フィードバックの充実	課題や授業内活動に対する形成的フィードバックを通じて、次の学修に活かせる支援を強化します。
FD・ティーチング・ポートフォリオへの接続	各教員が授業改善の根拠としてデータを活用し、改善の履歴を蓄積します。

データに基づく教育改善サイクル

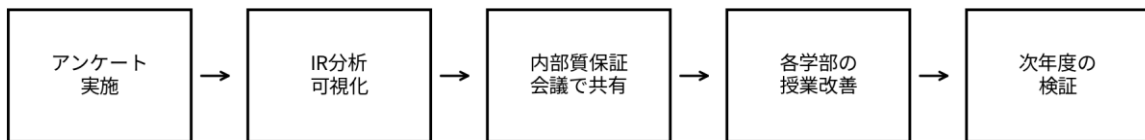


図2 授業評価アンケートを起点とした教育改善サイクル

5. IR推進室からのメッセージ

IR推進室は、授業評価アンケートを「学生満足度の確認」にとどめず、DPに基づく学修成果の可視化、授業改善、FD、ティーチング・ポートフォリオ、内部質保証をつなぐ教学IRデータとして活用していきます。今後も、学生の学びの質を高めるため、各学部・研究科・専攻科と連携しながら、データに基づく継続的な教育改善を推進します。

今後の取組

各学部・研究科・専攻科へ結果をフィードバックし、シラバス点検、授業方法・評価方法の見直し、FDテーマ設定、次年度結果との比較検証に活用します。学生の学修経験を起点に、教育の質保証をさらに具体化していきます。